

◎食のリスクコミュニケーション・フォーラム 2020 (4回シリーズ)

『消費者市民のリスクリテラシー向上を目指したリスクミとは』

第2回テーマ：『健康食品のリスクミ～天然成分のリスクは?』

【開催日】 2020年8月30日(日) 13:00~17:50 (最大延長:18:00)

【開催場所】 東京大学農学部フードサイエンス棟 中島重一郎記念ホール

\*オンラインでも同時配信します (Google Meet)

\*会場に入構不可の場合、オンラインのみの対応となります。

【主催】 NPO 法人食の安全と安心を科学する会 (SFSS)

【後援】 消費者庁、東京大学大学院農学生命科学研究科食の安全研究センター

【協賛】 日本生活協同組合連合会、一般社団法人食品品質プロフェッショナルズ、  
東京サラヤ株式会社

【対象】 食品関連行政の担当者、食品事業者の広報・お客様相談・品質保証担当、リスク研究者、  
マスメディア、消費者団体・市民団体、など

【定員】 **先着 50名 (オンライン会議の定員は 80名)**

【講演会参加費】 3,000円/回 (事前に銀行振込をお願いいたします)

\*SFSS 会員、後援団体・協賛企業 (口数により人数制限)、メディア (取材の場合) は無料

【参加申込み】 <https://forms.gle/RqR659VWWbHz9LR66> (8月27日で受付終了予定)

【お問い合わせ】 SFSS 事務局まで (TEL/FAX: 03-6886-4894、email: [info@nposfss.com](mailto:info@nposfss.com))

【本フォーラムの主旨】

毎回、食のリスクに詳しい有識者をお迎えし、講師3名 (Q&A 含み 60分) + 総合討論 (90分) :  
13:00~17:50 の構成とします。総合討論では、消費者市民の安全・安心につながる食のリスクコミ  
ュニケーションのあり方について、参加者の皆様からの質問に講師が回答する形で議論します。

【事故防止対策等】フォーラム開催に際して、事故防止及び公衆衛生の措置に留意し、十分に講じま  
す。特に、今般の新型コロナウイルスに関しては、十分な感染症対策等を講じることとします。

【各講師のご紹介&講演要旨】

① 宗林さおり (国民生活センター)

『錠剤・カプセル状健康食品の品質等と健康被害について』

消費者へのアンケート調査では、商品選択に自信がないにも関わらず、治療中の諸症状の改善  
や老化予防等のために健康食品を摂取している人が散見され、効果が実感できないと多めに摂  
取する人もみられる。一方、機能性表示食品制度が発足してから消費者からの苦情や具合が悪く  
なった等の申し出は他の商品の中ではトップである。今回は実際に調査を行った錠剤・カプセル  
タイプの健康食品の崩壊性等の品質や、機能性成分の商品による差、テスト方法による測定値の  
差、表示との関係を紹介し、課題を抽出するとともにみなさんと解決に向けて議論したいと思っ  
ています。

② 畝山智香子 (国立医薬品食品衛生研究所)

『新規食品成分の安全性確保について』

提供する食品の安全性確保は基本的に事業者の責任であるが、新しい食材や成分を使う、あるいはこれまでとは違う使い方をする場合に、日本にはどうすれば安全性が証明できるのかについては明確なきまりはない。そこで欧州と米国で近年確定された安全性の立証の考え方について紹介する。欧州では新規食品(ノベルフード)、米国では新規ダイエタリー成分(NDI)及び GRAS 規制が公式に採用されている。韓国でも食品にポジティブリスト制を導入し、安全であると判断されたものだけが食品として使用できる。基本的には食経験あるいは食品添加物と同等の安全性の立証が要求されている。

③ 山崎 毅 (SFSS 理事長)

『機能性表示食品のリスクと安全性をどう評価する?』

いま国が認めている機能性表示食品制度は、食品事業者自らが機能性/安全性の科学的根拠情報を消費者庁ホームページに開示し、企業の裁量(性善説)に依存した規制なので、消費者市民が開示情報を見極めたうえで、商品の合理的選択を求められている。消費者が機能性食品により生活習慣病のリスク低減を期待しているのに、実は安全性に問題ありでは本末転倒なので、筆者はこれまで「食品の機能性には寛容に、安全性には厳しく」とお伝えしてきたところだ。本講演では、食品事業者が開示している機能性表示食品の安全性情報をもとに、健康食品のリスクの大小について議論したい。

以 上